

日印原子力協定に反対！ 武器輸出に反対！ ～12・12 日インド市民共同アクション～



原子力規制を監視する市民の会 阪上 武

12月12日は土曜日でしたが、午後、官邸前には150人以上の市民が集まり、インドとの原子力協定締結反対と武器輸出反対を訴えて抗議デモが、インド市民との共同アクションとして行われました。まさに同じ時に安倍首相はインドを訪れ、モディ首相と原子力協定や武器輸出に関する会談を行っていました。呼びかけは、FoE Japan、原子力規制を監視する市民の会他でした（写真：「死の商人」アベちゃん登場!?!/提供 FoE Japan）。



インドでも「安倍かえれ！」コール

このときインドは午前9時半、原発建設予定地のジャイタプールでは2,000人の市民が集まり、「安倍かえれ！」のコールをあげていました。会談が行われたニューデリーでも数百人規模で抗議デモが行われました。官邸前では、電話やスカイプでインド現地とつなぎ、交互にアピールを繰り返しました。

インドは市民運動への弾圧が厳しく、ムンバイでは反原発の街頭デモには許可がでないといわれています。福島原発事故後に規模が拡大したジャイタプールの原発反対運動では死者も出ています。現地で活動されているヴァイシャリさんはそれでも、「牢屋を溢れさせて当局を困らせてやるのだ」と元気いっぱいに話されました。

印象的だったのは、インドから、新幹線にも反対しようと呼び掛けていたことです。原発だけでなく、新幹線のような巨大開発も、伝統的な暮らしを破壊し、貴重な自然を破壊し、そしてなにより、利益と利便はごく少数の富裕層が握り、大企業が潤うだけで、貧富の格差がますます広がる元凶だということです。

原発にも核にも武器輸出にも反対！

インドとの原子力協定は、原発の輸出にとどまらず、NPT という国際的な枠組みに加わらない核兵器保有国に対する核技術供与という問題をはらんでいます。今後結ばれる協定には「平和利用に限る」との趣旨が盛り込まれ、歯止めを設けると外務省は言っているようですが、具体的な内容は明らかにされておらず、守られる保証はありません。使用済核燃料が再処理されてしまえば、それはそのままプルトニウム原爆の製造に直結するでしょう。

そのうえに武器輸出です。今回、防衛装備移転協定が結ばれ、インドへの武器輸出は一步進みました。官邸前では、核兵器を保有するパキスタンと敵対する紛争当事国でもあるインドの軍事に深く肩入れすることの危険性についても語られました。

原発と放射能汚染、環境破壊、生活破壊の問題、それだけでなく、核兵器につながる核技術供与の問題、武器輸出を進めることが、軍事的緊張を激化させている問題、日印原子力協定をめぐる問題には、原発、核、安保をめぐるさまざまな問題が集約されていることを改めて思い知らされました。